埼玉県名発祥の地 行田
市報 ぎょうだ No.781
平成23年7月1日発行

ぎょうだ 歴史系譜 208 行田の歴史再発見 11

徳川家康・家光と忍城主

天正18年（1590）8月、関東に入った徳川家康は家臣の松平家忠を忍城に派遣しました。家康は当初から四男松平忠吉を忍城主とするつもりでしたが、忠吉はこのとき10歳で、豊臣秀吉の人質として大坂に滞在していました。忍城も石田三成の水攻めにより破損したため、暫定的に家忠を忍城に入れて、城の修復と周辺の治安維持に当たらせたのです。家忠は1年半ほど滞在した後、忍城を忠吉の家臣たちに引き渡しました。

忍城に入った松平忠吉ですが、実際には家老の小笠原吉次ら重臣たちが政務を担当していたようです。関ヶ原の合戦では一番槍を約束されていた福島正則を出し抜いて、義父の井伊直政と共に抜け駆けの先陣を果たしました。合戦後は52万石の領地を与えられ、尾張国清洲城主となりました。

徳川家康画像（忍東照宮所蔵）

忠吉が忍城を出ると城主は置かれず旗本が城代を務め、周辺の土地は幕領となりました。この期間が30年ほど続きますが、検地が行われ年貢の徴収制度が成立するなど、江戸時代の政策の基礎が出来上がっていきました。また、徳川家康が鷹狩りで7度忍城を訪れました。

三代将軍徳川家光の時代、寛永10年（1633）に幕府の老中松平信綱が三万石を与えられ忍城主となりました。信綱は子どものときから家光に仕えた側近です。老中は国政を担当するため、常時江戸に滞在しています。信綱も忍に戻る機会はほとんどなかったと思われます。在任中に九州で島原の乱が起こり、信綱は幕府軍の総司令官として現地に派遣され、乱を鎮圧しました。その功績により寛永16年（1639）に六万石に加増されて川越城主となり、代わって老中阿部忠秋が五万石を与えられ忍城主となりました。忠秋も信綱と同じように家光の小姓から老中まで出世した政治家です。これ以降、文政6年（1823）まで184年にわたり忍城は阿部家の時代が続くことになりました。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

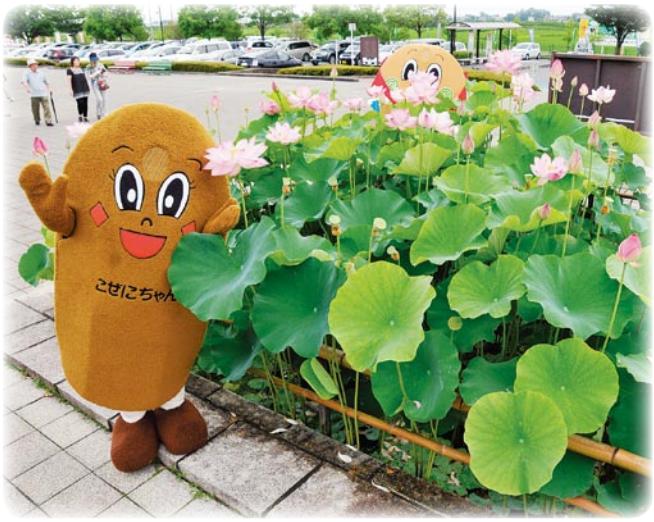
こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

行田蓮・古代蓮の里

昭和46年に焼却場を建設する工事の時、地中にあった蓮の実が掘り起こされて自然に芽を出した行田蓮。今では、行田の夏を彩る代表的な花として、市の天然記念物に指定されているんだよ。

行田蓮は、約1400～3000年前の蓮だといわれていて、濃いピンク色の花びらが特徴的。この行田蓮をはじめ、たくさんの種類の花蓮が楽しめるのが「古代蓮の里」なんだ。42種類12万株の蓮が咲くシーズンには、朝早くから多くの観光客でにぎわうんだよ。なぜ早朝かって？それは、蓮が満開になる時間は午前7時から9時だから。みんな早起きして見に来てね。



今月の表紙

6月12日、古代蓮の里東側の水田で、田んぼアート米づくり田植え体験事業が行われ、668人もの参加者が集まりました。今年は、歴史小説「のぼうの城」のカバーイラストとして描かれている成田長親・石田三成と東日本大震災の復興へのメッセージが題材。参加者は、泥に足をとられながら、苗を植えていました。

なお、田んぼアート面積が「世界一」となることから、ギネス世界記録に申請をする予定。行田の魅力が世界に発信されることでしょう。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。
ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。
ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

PRINTED WITH SOY INK
環境にやさしい大豆油インキ

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361-8601 行田市本丸2番5号　TEL 556-1111　FAX 550-2116
ホームページ http://www.city.gyoda.lg.jp　携帯サイト http://www.city.gyoda.lg.jp/mobile/index.html